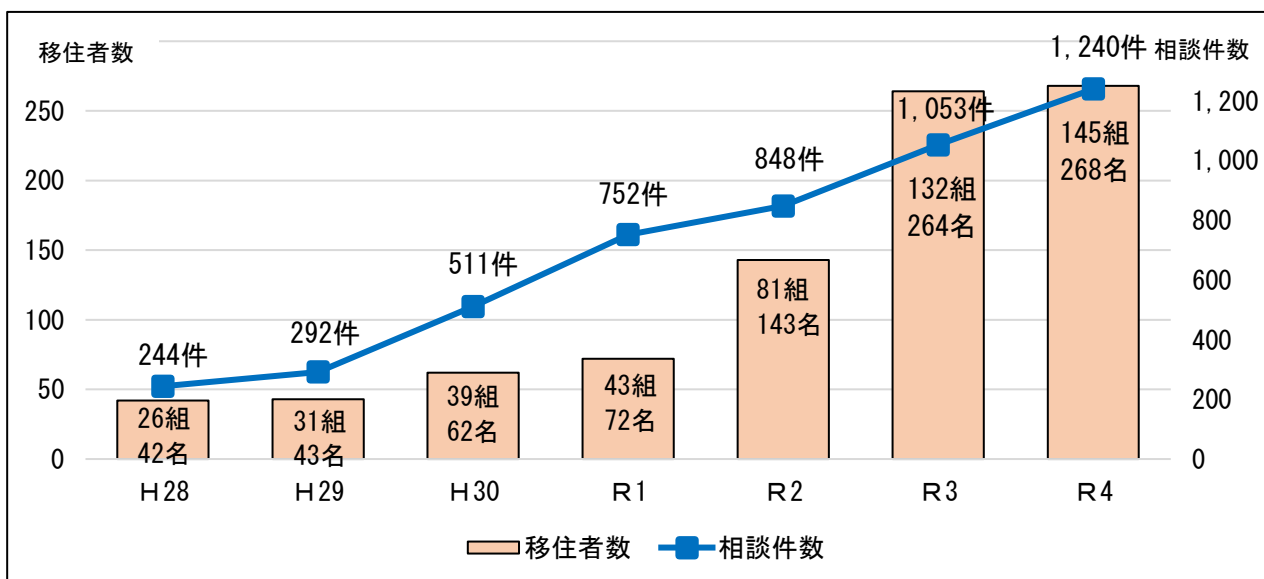


山形県への移住を巡る状況 資 料

1 移住者数及び移住相談件数

- ・令和4年度にセンターの相談窓口を通じて移住した方は145組268名となり、目標としていた300名には届かなかったものの、令和3年度の132組264名を上回る結果となった。
- ・相談窓口における移住相談件数は1,240件となり、令和3年度実績と比較して17.8%の増となった。

(1) 移住者数及び相談件数の推移



※ 移住者数はセンター（県）の相談窓口を通じて移住した人数

※ 相談件数は窓口での相談件数（但し、R2以降は移住・交流フェアを除くセミナー等でのブース対応等を含む）

※ H30までは県、R1は「やまがた移住定住・人材確保推進協議会」、R2以降は「一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センター」

(2) センター（県）の相談窓口を通じた移住者数

	移住者数	対前年度比
R1年度	72	—
R2年度	143	198.6%
R3年度	264	184.6%
R4年度	268	101.5%

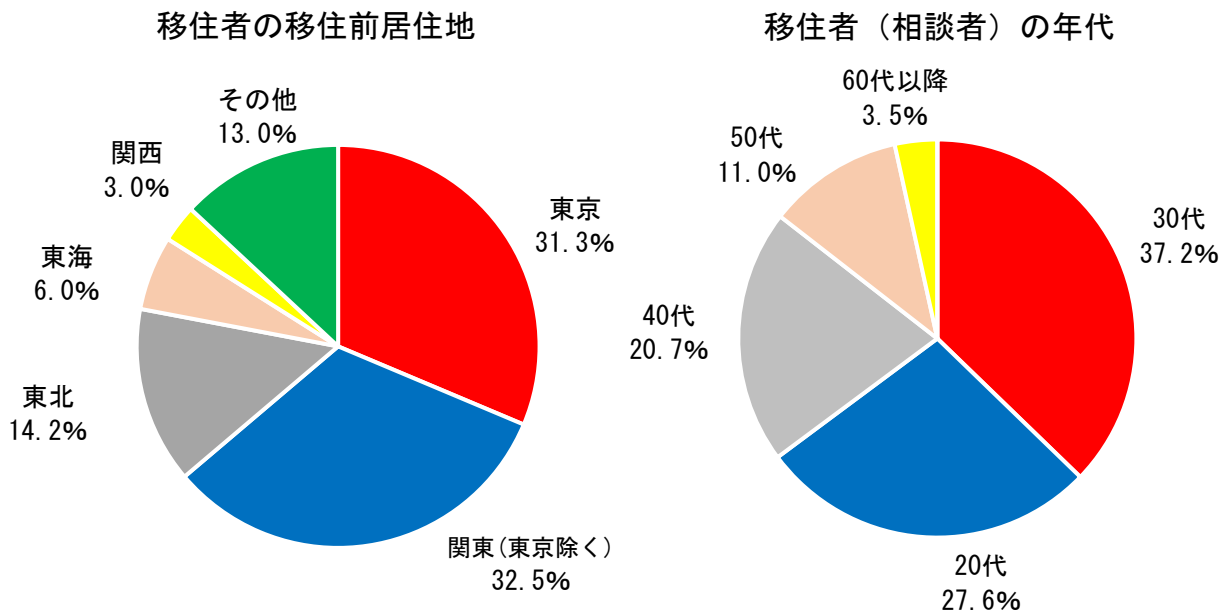
(3) 相談窓口における移住相談の件数

	相談件数	対前年度比
R1年度	1,019	—
R2年度	848	83.2%
R3年度	1,053	124.2%
R4年度	1,240	117.8%

2 移住者の状況

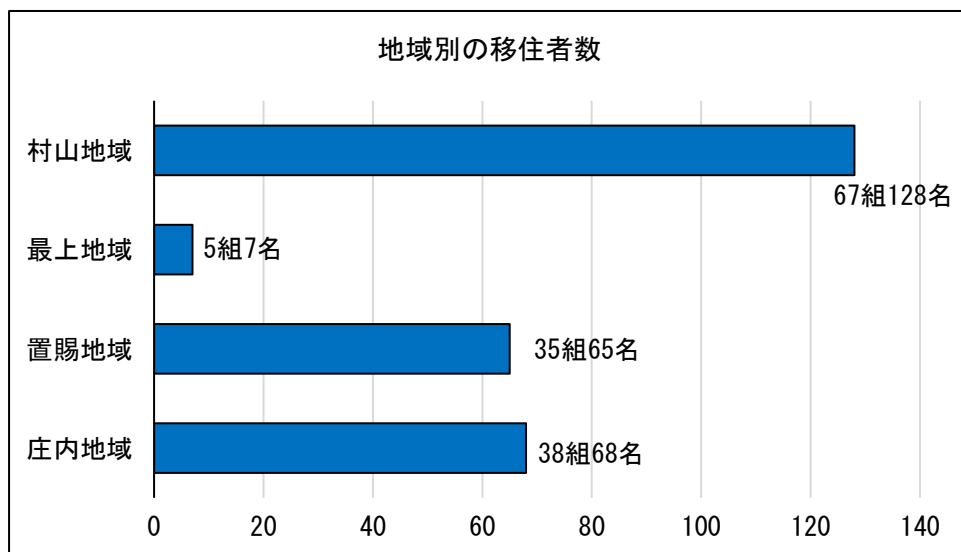
(1) 移住者の移住前居住地及び年代

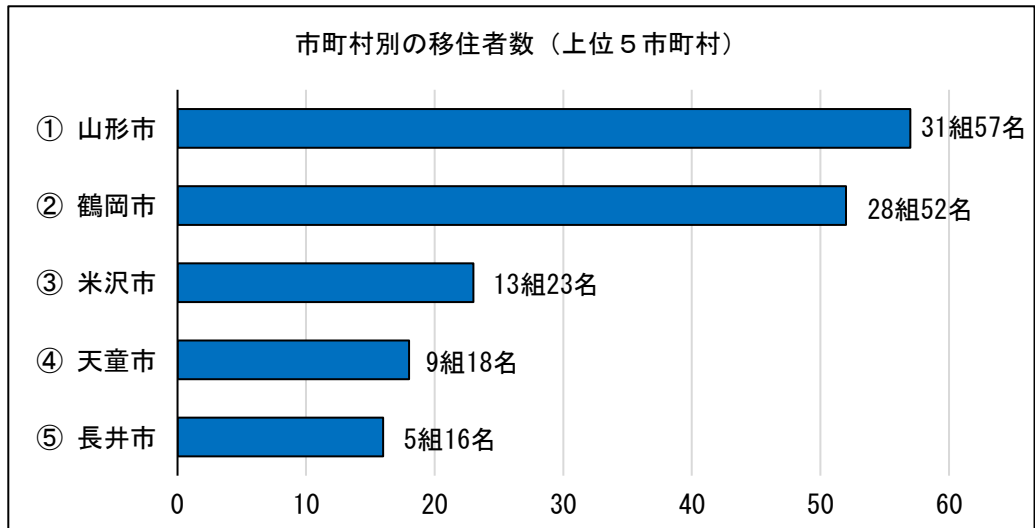
- ・ 移住者の移住前居住地をみると、東京含む関東圏が6割余と最も多く、特に東京に居住していた方が3割余と最も多い。
- ・ 移住者（相談者）の年代別では、30代が4割弱と最も多く、次いで20代、40代となっている。



(2) 移住先の状況

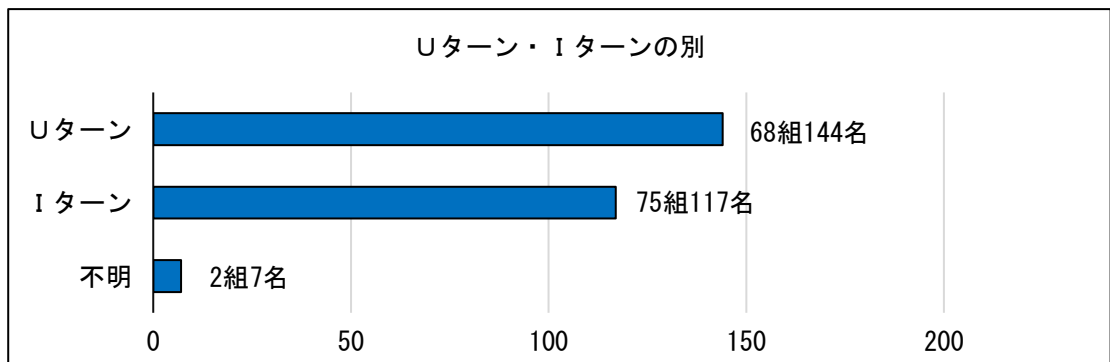
- ・ 移住先の地域別をみると、村山地域が67組128名と最も多く、次いで庄内地域が38組68名と多い。



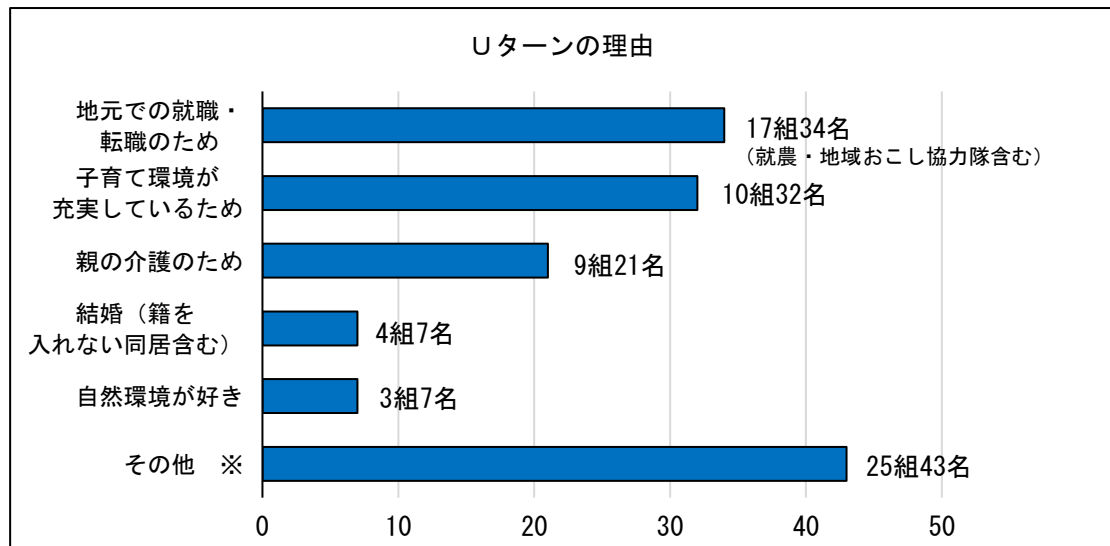


(3) Uターン・Iターンの別

- ・移住者のUターン・Iターンの別をみると、Uターンが68組144名とIターンと比較して27名多い。
- ※ Uターンには、配偶者の出身地が山形県である者を含む。
- ・UIターンした理由をみるとUターンは「就職・転職」が最も多く、次いで「子育て環境の充実」が多い。またIターンも同様に「就職・転職」が最も多いが、次いでは「自然環境の魅力」が多い。



① Uターンの理由

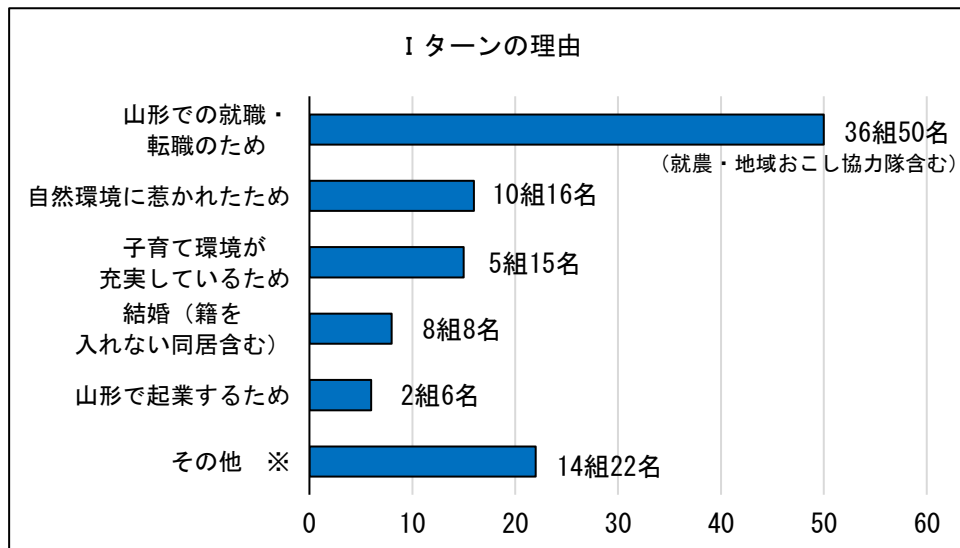


※ 「その他」には、「親族・友人が山形にいるから（5組5名）」、「リモートワークをきっかけとして（2組4名）」、「地元に戻ることを親が望んでいるから（1組4名）」等がある。

[事例]

- ・以前からUターンを考えており、仕事があるか不安なもの、長男が小学校に入学する前に移住したかったから。(子育て環境)
- ・山形市の大学に進学してその後上京して横浜市の会社に就職。親から常々戻ってくるように言われており、3月末に仕事の契約期間が終了するのを機に、Uターンをして仕事を探そうと思ったから。(就職・転職)
- ・全国的な規模での仕事をしてみたくて大学卒業後も関東に残ったが、今後の結婚や子育てをイメージすると、地元が良いと思い、Uターンを決めた。(ライフスタイルの見直し)
- ・今の仕事をリモートでできることになったので、高い家賃を出して東京に住んでいても仕方がないと考えるようになり、実家の近くに移住しようと思ったから。(その他・リモートワーク)

② I ターン の理由



※ 「その他」には、「親族・友人が山形にいるから(4組5名)」、「リモートワークをきっかけとして(2組3名)」、「理想の物件(空き家)が見つかったから(1組2名)」等がある。

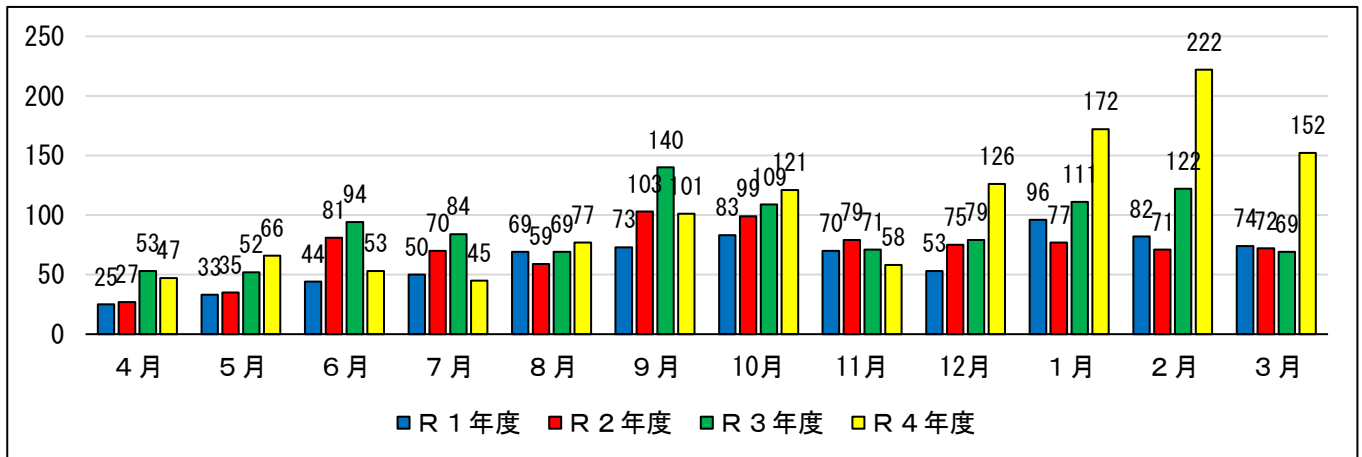
[事例]

- ・20年以上ワインに関する仕事に従事しており、日本の北の方でワインを作りたいと想着いて、山形のデラウェアワインに魅力を感じたことから、上山への移住を決めた。(就職・転職)
- ・友人が山形県の企業に勤めており、自分のその企業に勤めたいと思っていたから。(就職・転職)
- ・山形の人々の良さと自然環境の良さに惹かれ、田舎暮らしがしたいと思ったから。(自然環境・自然景観)
- ・山形県の自然環境が好きで、Iターンして今の仕事(IT関係)をリモートでしたいと思っていたところ、今の仕事をリモートでできるようになったから。(自然環境・自然景観)
- ・子どもや自分の健康や将来の生活を考えて、子どもの小学校入学に合わせて移住を考えていたところ、東京で出会った山形出身の方々の人柄や風土の明るい雰囲気、生活圏と自然への距離感に魅力を感じたから。(子育て環境)

3 移住相談の状況

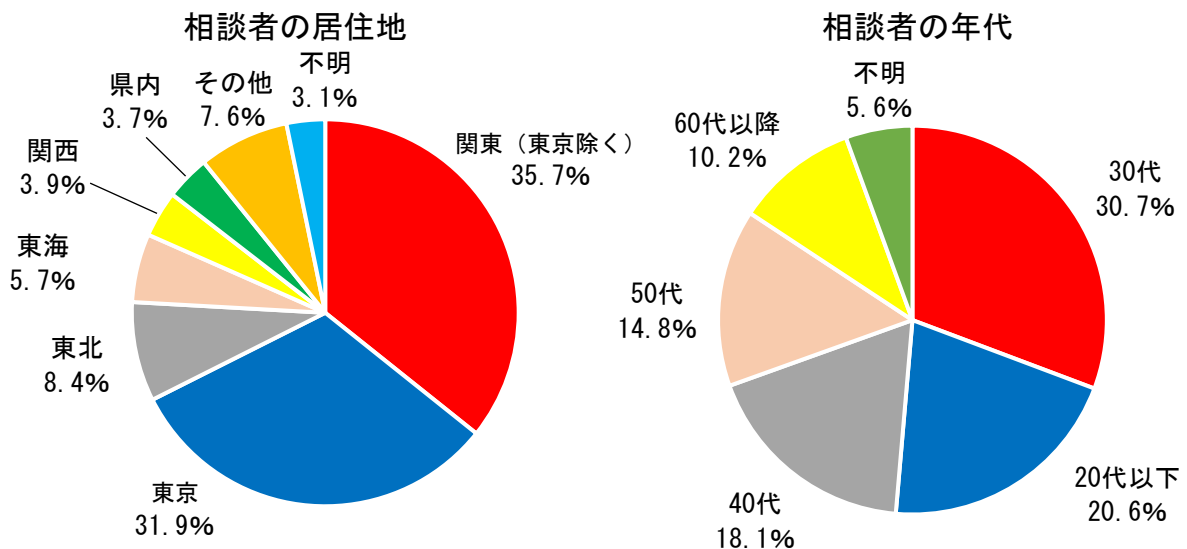
(1) 相談窓口における移住相談の件数（月別）

・ 移住相談の件数は、令和2年度のコロナ禍以降、地方移住への関心の高まりを受け高水準で推移している。特に、令和4年度は、12月以降、県や外部団体が開催する合同企業セミナーや移住・交流フェアへの出展、年度末に向けて移住を検討している方へのフォローアップ、やまがた暮らし体験ツアー等に同行しての将来の移住に向けた移住支援策の案内等の実施により相談件数が大きく増加した。



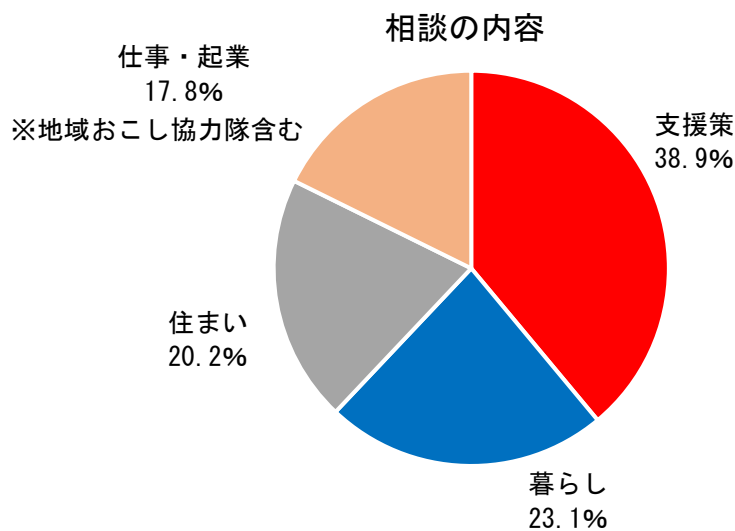
(2) 相談者の居住地及び年代

・ 相談者の居住地別をみると、東京含む関東地域に居住する方からの相談が7割弱となっており、特に東京に居住する方からの相談が最も多い。
 ・ 相談者の年代別では、30代からの相談が3割と最も多く、次いで20代以下からの相談が2割となっている。



(3) 相談の内容

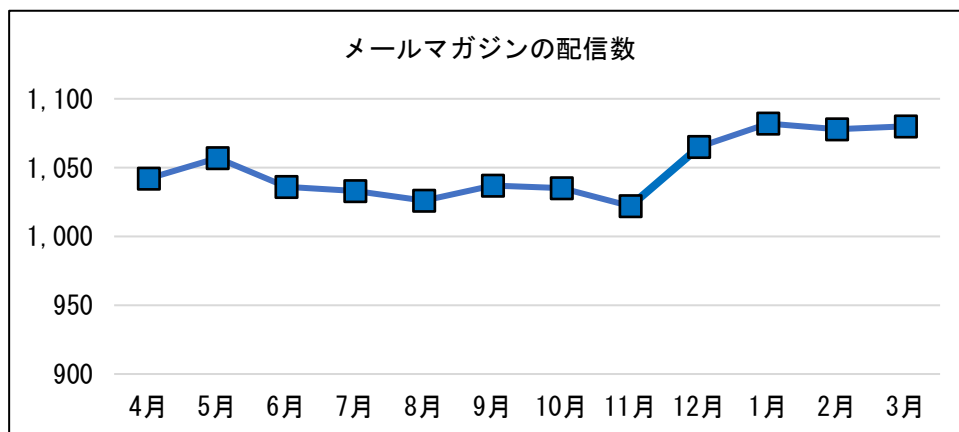
- ・相談内容の内訳をみると、山形への移住に関心があるものの、特定の市町村に絞り切れていない相談者からは、山形の気候や交通の便などの暮らしに関する相談が多く寄せられる傾向があった。一方で、移住したい市町村が既に決まっている相談者からは、移住に際しての経済的負担を軽くするための移住支援策に関する相談が多く寄せられる傾向があった。
- ・また、冬の山形の暮らしに関する相談も多く寄せられており、とりわけ冬の積雪や冬道の運転に不安があるとの声も寄せられた。



4 情報発信の状況

(1) メールマガジンの配信

- ・毎月1回、メールマガジンをマルマガ登録者に配信。
- ・各種移住支援策のほか、県や市町村、「くらすべ山形」の移住セミナーやイベント、「やまがた暮らし応援カード」の協賛店情報などを中心に配信。
- ・メールマガジンの登録者数は1,080名（令和5年3月1日配信分）



(2) SNS（フェイスブック、インスタグラム）による情報発信

・フェイスブック、インスタグラムともにフォロワー数は増加で推移。

【フォロワー数】

フェイスブック R4.3月：815人 → R5.3月：895人（+80人・9.8%の増）

インスタグラム R4.3月：781人 → R5.3月：1,028人（+247人・31.6%の増）

